

平成 19 年 度 同 窓 会 行 事 ・ 業 務 報 告

1. 基本方針

平成 19 年度においては、以下のような事柄を重点項目として据え活動を展開した。

1. 「母校支援事業の継続」および「地域交流の推進」を活動の基盤として意識する。
2. 「財務基盤の評価および安定化」に関する事項について継続的には検討を行う。
3. 同窓会活動の将来的な充実を計るため、内外に対して「同窓会活動に関する広報および啓発活動の強化・充実」に取り組む。
4. 学園内設置校同窓会との交流推進などの対外的活動を推進する。

2. 重点事業

また、上記の具体的施策として次の事項を重点事業として取り上げた。

【重点事業】

1. 地域支部の振興・交流推進
2. 同窓生の交流推進
3. 大学・在学生に対する諸支援
4. キャリア関連事業の継続的検討
5. 大学・企画室との連携強化
6. 広報的活動の企画と推進

以上を踏まえて、いくつかの点について所感を述べる。

a. 地域交流、同窓生交流

南東北支部設立が具体性を持ったことは成果の一つであるが、既存の地域支部に関しては、新規会員取り込みや役員の世代交代の停滞、地域懇話会も含めた行事のマンネリ化、などが感じられる。これらの一部は、予算申請内容あるいは獲得意欲にも現れているようである。これらを直ちに改善する方策は無いかもしれないが、問題を共有し、本部とのオープンな連絡体制を維持することは重要である。長期的な立場で言えば、在学生あるいは教職員に対する意識付けの強化は大きな意味を持つように思われる。

大学祭における同窓生交流会は、初めて札幌支部および機械支部の連携により実施された。今後、方針の統一化など一層の意思疎通と強調を望みたい。総会における技術交流会は、まだ回が浅いが良質の企画により今後の継続・定着を期待したい。

b. 財務基盤

入学者の減少は見込めるものの、本会においては今後当分は会員数は増加し、その間、会員継続の手続き依頼も併せて行っていくことになるが、再手続き率はおおよそ 5%程度であり、比較的近い将来、会員数は頭打ちとなる可能性がある。この過渡的期間とその後に耐える財務体制を確立する必要がある。

予算の策定にあたっては、効率的な運用を心がけたつもりであったが、支部助成などに関しては、上記?の内容や本部のPR不足などもあり活用状況は不本意な結果となった。ただし、会計内容に関しては、項目の整理統廃合などの見直しを継続し、透明性はさらに増したと考えている。

c. 大学・在学生に対する諸支援

在学生への支援は、活動助成、祝賀会助成が大きなものであり、一定の成果は得られているが、より効果的で、同窓会が在学生により理解してもらえるような工夫が必要であろう。

大学祭におけるチケットはほぼ認知され、助成の一翼を担っている。また、大学に 同窓生を集めると言う点でも有効であった。

d. 広報および啓発活動

広報的活動としては、ネット関連機能の充実を心がけたことが重点として上げられる。例えば、コンテンツの充実、Blog、メーリングリストの設定などがある。同窓会を意識させる点では、学生表彰の公開化など、意図的に同窓会が見えるように配慮した。

e. 大学・企画室との連携強化

定期懇談会はもはや定常的な行事となっており、その中で、今期はできる限り具体的な問題を提示し、解決に向かって強調していただけるように提案を行った。

3. 年間の行事・業務

平成 19 年度の具体的な行事・業務の内容は次の通りである。